

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本 事項	計画コード	事業名	部名	教育委員会事務局	
	17077	学力向上推進事業	課名	学校教育課 教育支援G	
	施策の大綱	04:子育てと子どもの成長を支える環境の充実	財務 科目	会計	01:一般会計
	基本施策	01:子どもたちの豊かな学びと成長		款	10:教育費
	施策の方向	03:子どもたちの育ちのための学びの展開		項	08:教育研究費
	戦略プロジェクト	05:「そして、親となるまち」プロジェクト		目	01:教育研究費
事業予定期間	H 27 ~ R - 年度		主な根拠法令要綱等		

目的 概要	対象	市内小中学校の児童生徒及び教職員
	目的	児童生徒一人ひとりの「確かな学力」の向上を図るため、「亀山市学校教育ビジョン」「亀山市学力向上推進計画」に基づいた取組を推進する。
概要		児童生徒の学力の状況や課題を把握し、各種施策によりその向上を図る。研修会を開催することや、先進地視察等により、授業改善に努めるとともに学習環境を充実させるなどして総合的に学力向上への取組をすすめる。

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業 計画 実績	年度計画	補充学習支援教材の活用 中学校への運動部支援員の派遣 教職員への各種研修会の開催 かめやまっ子チャレンジの実施 ○学力定着に課題を抱える学校の重点的・包括的支援に関する実践研究(小・中学校)の実施	補充学習支援教材の活用 中学校への運動部支援員の派遣 教職員への各種研修会の開催 かめやまっ子チャレンジの実施	補充学習支援教材の活用 中学校への運動部支援員の派遣 教職員への各種研修会の開催 かめやまっ子チャレンジの実施	
	年度実績	○補助学習支援教材(問題データベース)への各校ログイン回数約6,539回 ○運動部支援員派遣約213回 ○学力向上研修会2回開催 ○先進地視察による情報収集1か所 ○「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における活動支援員2名配置			
事業 の 計画 ・ 実績	計画額	事業費	4,300千円	3,800千円	3,800千円
		国庫支出金			
		県支出金	500千円		
		地方債			
		その他			
	予算額	事業費	4,213千円		
		国庫支出金			
		県支出金	453千円		
		地方債			
		その他			
	決算額	事業費	3,657千円		
		国庫支出金			
		県支出金	453千円		
		地方債			
		その他			
人件費	一般財源	3,204千円	0千円	0千円	
	総人件費	785千円	0千円	0千円	
	一般職員	785千円	0千円	0千円	
	所要人員	0.10			
		会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円
総コスト(+)		4,442千円	0千円	0千円	
受益者負担率		0.0%	0.0%	0.0%	

				令和元年度	令和2年度	令和3年度	
指標	名称	全国学力学習状況調査の結果 市の平均正答率と全国の平均正答率の差 (全国学力学習状況調査)	成果	計画値	3	3	
				実績値	3		
				単位	%	%	
	名称	授業理解度 学校での授業を理解している子どもの割合 (学校評価アンケート)	成果	計画値	小89中81	小90中83	小92中85
				実績値	小88中87		
				単位	%	%	%
	名称	家庭学習の状況 家庭で自ら計画を立てて勉強していると答えた児童生徒の割合 (全国学力学習状況調査 児童・生徒質問紙)	成果	計画値	小63中68	小64中69	小65中70
				実績値	小70中54		
				単位	%	%	%

事業の改善	前評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 全国学力学習状況調査、みえスタディ・チェックにおいて、基礎基本の定着、「書くこと」についての課題がみられた。ふり返りの質に課題がある。学習指導要領の改訂に伴う、教職員の英語指導力向上と小中の連携を進める必要がある。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 基礎基本の定着、「書くこと」の指導については、校内で組織的に取り組むよう進めた。また、「学力向上推進計画」に沿った「めあて」と「ふり返し」の取組を各校で進めた。研修担当者会では、各校の取組を交流したり、指導主事の要請訪問等で指導を徹底したりした。更にこれまでの取組の成果と課題をもとに、「学力向上推進計画(第3版)」を策定した。英語担当者会、英語チャレンジ等の結果を指導につなげた。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 補助学習支援教材(問題データベース)への各校ログイン回数のべ6,539回、4人の運動部活動支援員を市内の中学校に年間213回派遣できた。「書く力」の育成を軸とする学力向上の取組にかかる教員アンケートを3回実施し、結果を校長会で公表し、取組を促した。また、ふり返りの実施状況、「三重の学Vivaセット」の活用についての取組を紹介した。学力向上に関する研修会を2回、英語についても研修会を2回実施した。「主体的・対話的で深い学びの推進事業」における活動支援員を2名設置し、のべ50回派遣した。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 全国学力学習状況調査の結果は、昨年度より向上し、全国平均と比べても、小中学校の各教科で-3%以内となった。基礎基本の内容の定着が少しずつ図られてきている。授業理解度は、小学校は目標値に達することができなかったが、中学校では、6%の上昇がみられた。家庭で計画を立てて学習を進めている児童生徒の割合は、中学校では昨年度より値が下がり、半数程度となっていたが、小学校では、若干増加した。	B まずまず成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 全国学力学習状況調査結果から、記述式の問題の無回答率が高い。また、事象を読み取ることや事柄が成り立つ理由を説明したり記述したりすることについては、十分な改善がみられていない。また、学校質問紙の結果から、小中連携の取組の弱さの課題が明らかになっている。	今後の方向性 <input type="checkbox"/> 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合、その内容を記載]
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 3月に改訂された「亀山市学力向上推進計画(第3版)」では、全教科・領域において「書く力」「読む力」「読み取る力」の育成を柱とする取組を重点項目にあげている。この重点取組の充実を図るため、市内教職員にその周知を図り、指導方法等の支援をしていく。また、小中学校の連携を図るため、各中学校区の拠点校を中心とした授業公開や授業参観を積極的に行い、児童生徒の学力・学習状況に関する情報交換を行いながら、支援し、授業改善を進めていく。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 児童生徒の一人ひとりの学ぶ意欲が増し、「確かな学力」の向上が期待できる。	
対応時期		令和2年度	

【1次評価者】	教育委員会事務局 学校教育課 教育支援グループリーダー 武内 早奈美
【最終評価者】	教育委員会事務局 学校教育課長 宇野 勉

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	B	B	B		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		4,213 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	4,213 千円
	令和2年度への繰越額	千円